

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 植竹 宏之
東京医科歯科大学大学院・医学部医学科・総合外科学分野 教授

研究要旨 一般の人を対象とした、ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。当院の池田貞勝氏、熊木裕一氏（がんゲノム診療科）に分担執筆を依頼し、了承され、執筆がなされた

A. 研究目的

3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことが目的である。研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目的とする。

B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針（記事更新のタイミングなど）を決定し、分担執筆者を選定する。事業全般において、分担研究者とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

1. 会議（がんゲノムネットワークワーキンググループ）の開催
2. 各情報配信業者との打ち合わせ
3. 書籍出版
4. 市民向けゲノム講習会の開催
5. 3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座の開催

C. 研究結果

ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。当院の池田貞勝氏、熊木裕一氏（がんゲノム診療科）に分担執筆を依頼し、了承され、執筆がなされた

D. 考察

「遺伝子パネル検査」が保険診療となり、研究ベースから実臨床にゲノム医療の場が移った。しかし検査は高額であり、また治療薬が見いだされて実際に投与されるのは20%程度である（大腸

癌）。真にゲノム医療の恩恵に浴する症例を抽出するためにも、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有することが重要である。

E. 結論

書籍「よくわかるがんゲノム医療」が制作された。今後、インターネットを用いて、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有する。

F. 研究発表

論文発表

1. Menyhart O, Kakisaka T, Pongor LS, Uetake H, Goel A, Györfy B. Uncovering Potential Therapeutic Targets in Colorectal Cancer by Deciphering Mutational Status and Expression of Druggable Oncogenes. *Cancers (Basel)*. 2019 Jul 14;11(7):983. doi: 10.3390/cancers11070983.
2. Kumaki Y, Takahashi K, Mitsumura T, Yokobori J, Takamine E, Ishibashi E, Sakashita H, Ishikawa T, Ono H, Ban D, Kudo A, Oshima N, Nakagawa T, Kimura K, Kubota K, Onishi I, Tanabe M, Uetake H, Miyake S, Ikeda S. Clinical Utility of Comprehensive Genome Profiling Using FoundationOne CDx in Japanese Population (PROFILE-F Study) (Japanese). *Gan To Kagaku Ryoho*. 2019 Nov;46(11):1715-1719.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし